

平成 26 年 2 月 4 日

岸和田市産業活性化推進委員会 会議録（概要版）

日 時 平成 26 年 2 月 4 日（火曜日）14 時～16 時
場 所 岸和田市立産業会館 集会室
出席者 （委員）
鶴坂委員長 藤田副委員長 石田委員 伊藤委員 入野委員
植野委員 浦山委員 川島委員 杉本委員 田中委員
土井委員 永谷委員 永野委員 松下委員 柳曾委員
（事務局）
井上副市長 小山部長 杉本理事 牟田課長 古谷参事
和田商工担当長 宮下主査 草川
中浜観光振興担当主幹 原農林水産振興担当長
傍聴者 1 名

協議内容

（委員長） これから我々はなぜここに集められたのか、そして、何を
していかなければいけないのか、もう一度振り返りをした
い。

資料 4 について。このプランを策定したのは平成 20 年とな
っている。その間すごいスピードで世界の状況が変わって
いる。このプランの中でいろいろな方向性が指し示されて
いる。しかし 5 年経って、我々を取り巻いている環境は変
わっている。例えばグローバル化が進展していることや、
スマートフォンの普及でそれさえあれば世界と繋がれるこ
となど。このプラン策定当時は最新の施策であったと思う
が、5 年経って見直しが必要となってきた。実りの多い効
果的なそして効率的な施策としたい。そのために現場でど
のようなことが起きているのかつぶさに知りたい。アンケ
ート調査もしてはいるが、生の声を聞きたい。それらを踏
まえて、プランの根本的な流れは変えないにしても、4 行
目にあるように「実効ある施策を検討し、施策体系に反映
できるよう施策（案）の再構築を行う」ということに関し
て皆様の意見や知恵をお借りしたい。

まず検討事項（1）の SWOT 分析に関して、平成 20 年に策定
されたプランにおいても各業種毎に SWOT 分析が行われて
いる。例えば、「岸和田市産業振興新戦略プラン」の 12 ペ

ージ、ここでは工業の SWOT 分析を行っている。
SWOT 分析というものは企業が戦略を考えるときに、一番初めにすることである。「強み」「弱み」「機会」「脅威」を分析するものである。
しかし、この分析も 5 年前に行ったきりである。この情報では古いので、現状について確認・修正を行いたい。

次に (2)「施策(案)」の再構築に関して、今回岸和田市は以下の 5 つの項目に関して検討したいとしている。「これ以外にも重要な事項がある」、「この項目はいらない」等のご意見を頂きたい。

そして (3) 推進体制の再構築に関して、このプランはチェック機能を謳ってはいるがきちんと機能できていないので、こういった推進体制や改善する体制を作りたい。

最後に参考となっているが、事業評価においてプランに盛り込まれている施策のうち 2 つが抜本の見直しと評価されてしまっている。改善していかなければいけない。

膨大な量の説明があったが、一度これらを持ち帰り、皆様各業界の代表で来て頂いているので、他の方にもいろいろ聞いて頂きたい。そして、次回の 6 月には素案がでてくるそうなので、それを叩いて頂きたい。
まずはここまでの説明について、質問があればお願いします。

(委員) 私が一番気になったのは、行政としてまずは実態調査をしたいと、そのためにアンケートを行ったとあるが、その回収率が 10 パーセントしかなかったことである。10 パーセントしか答えてもらえないのに、本当に行政に現場のニーズが掴めるのか。また、こちらが一生懸命旗を振ってもついてきてくれるのか。
それに準ずる話となるが、ホームページは発信側の意向ばかりを伝えているのであって、見る人が本当に欲しいと思っている情報があるか。違う発信の仕方があるのではないか。
どこに的を絞るのか。弱みのあるところを強くするのか、強みのあるところを引っ張るのか。的を絞れていないから、5 年経っても突っ込んだ施策ができないのでは。そのとっ

かかりとなるのがアンケートだと考えるが、10パーセントしか回答がないということがやはり引っかかる。質問内容が本当に適したものだったのか。

(委員長) この質問は3点あると考える。
1つ目がアンケートの回収率が10パーセントしかなかったといことと、質問項目の立て方。
2つ目が情報発信の仕方。ホームページでは一方的ではないかということ。
3つ目が新戦略プランのターゲットが曖昧であること。
以上について事務局の見解をお願いします。

(事務局) アンケートに関しては、事務局内でも議論したところである。通常市の実施するアンケートであれば30パーセント程回収率が見込まれてもいいものであるが、それと比べると今回はかなり少なくなっている。
その要因としてアンケートというのは無記名が一般的であるが、今後市の施策を考えるにあたって、場合によっては事業所様の意見をお聞きしたいと思い、今回はあえて記名でお願いした。そのことで敬遠されたのかもしれない。そのため本来の見込みである30%よりも少なくなることは見込んでいた。今後のフォローアップのことを踏まえて記名にさせていただいた。
ホームページに関して、情報発信の仕方の見直しについてのご意見は、まさにその通り。今のままでは情報提供して頂いている側からも理解が得られない。市も予算を掛ける中で考えているところである。ここは皆様のニーズを踏まえて改善していきたい。皆様のご意見を頂戴いただければと思う。
新戦略プランのターゲットに関しては、市の行う事業であるためどうしても薄く広くとなってしまうがちなところである。成長戦略のためのひとつのプランという位置づけがある中で、特化しにくい部分があり、金融支援や相談事業等を中心に行っているのが実情。今後の方向性をこの審議を見せて頂き考えていきたい。引き続きここに関してもご意見を頂戴できるよう、お願いしたい。

(委員) ここにいる方々は様々な関連分野を代表してきている。ここにいる方々に依頼して、各々の関連企業に再度アンケートを実施してみてもは。

(事務局) アンケートの再実施については、状況を見て引き続きご相談していききたい。予算の関係もあり、また、回答者が重複してしまい、混乱を招く恐れもある。方法を考える。

(委員長) 例えば自由回答欄への記述を積極的にして頂いた企業様にヒアリングを行うのはどうか。質的なデータを取ることも可能かと思う。その辺の運用はまた検討いただきたい。公務員というのは立場上「公平性」が求められる。なかなか選択と集中ということができない業界であるため、理由づけをしていただければ方向決定しやすくなるかと思う。皆様から率直な意見を頂ければと思う。

(委員) 個々の「がんばる企業を応援する」や「先進的な分野にチャレンジ」等であれば5年は長いと感じるかもしれないが、岸和田市全体の成長戦略となると5年は短く、成果を出すには相当な時間がかかると思う。

新戦略プランの方向性は、国の成長戦略や府の施策の方向性と合致しているか。例えば、岸和田城周辺の整備事業は、府の施策と合致していたために多くの補助金を受け、結果を出すことができた。このように国や府の施策をうまく活用していきたい。個々の企業が円滑に行えるよう、市からの早い段階での情報提供や、書類作成支援といったことをしていくことも、ひとつの方向性ではないかと考える。

別の方向性として、例えば、商店街は様々なイベントを行っているが、根本的には商店街周辺地域における人口減が、商店街自体の発展を阻害する要因となっている。この根本的な問題をどう考えていくか。国の「コンパクトシティ推進」に乗っていくのか、あるいは岸和田市独自の施策として税優遇施策や他の制度等を盛り込んでいったらどうか。さらに、今回のアンケートでもほとんど触れていなかったが、海外進出、海外展開についてはどうなっているのか。もっと海外支援についての制度を拡張するべきではないか。

(委員長) ここから意見交換に移ります。

岸和田市が基礎自治体として何をしなければいけないのか。国、府、市と3つの役割分担が必要。ここが定まっていないういから予算があってもなかなかしんどいものがある。国、府、岸和田市での役割分担の整備、その方針は事務局

で考えて欲しい。

人口の問題についても、定住人口や購買人口をどのように増やしていくかは岸和田市で一定の方向性があると思う。

今後示して頂ければと思う。

他に意見をお願いします。

(委員) 自分は製造業に携わっているが、求人募集しても岸和田市在住の人からの応募はほとんどない。せっかくニーズがあるのに答えてもらえないのは残念。ほとんどが岸和田よりも南、あるいは和歌山県から務めに来ている。だんじり祭礼の日も交代勤務とした。その際にこのような問題に突き当たった。そのため会社は従業員のために多くの交通費を負担し、従業員は通勤に多くの時間を費やすことになる。お互いにとってよくない。できれば近くで、地元で求人をしたい。この辺りは岸和田の良いところであり悪いところである。この会議で少しでも問題解決の切り口が見つけられればと思う。

(委員長) このプランに、雇用系の施策はあったか。

(事務局) 就労支援施策で合同説明会等、ハローワークと連携したものがあある。

(委員長) 私の大学の学生を見ていると、岸和田市在住の学生は地元志向が強いように感じる。その辺りにミスマッチが起きているのかもしれない。中小企業はコンスタントに新卒を採用していないと思う。しかし、大学側は新卒採用の際は真っ先に声をかけて欲しいと思っている。地元の学校と企業と連携できたらと思う。

(委員) 5年前の新戦略プランワーキングチームに参加していた。当時の思いがあったので、少し報告したい。「岸和田市産業振興新戦略プラン」という冊子の40ページに図があるが、当時は「経営革新支援法」という法律があり、「自社製品を作りなさい」という国の動きがあり、製造業は自社ブランドを作るための支援が手厚くあった。しかし岸和田市の産業をみても「素材型」の産業が多い。その中で自社ブランドを作るのは難しい。そこで生まれたアイデアが、素材型で強みを持たせようと、「川上」「川中」の戦略をとるものであった。今お配りしたのは、その後に書いた我々研

究所の論文である。その論文もまた帰ってからご覧いただきたい。このプランの作る前にも非常に試行錯誤しており、岸和田市は取り組まれている例としては歴史がある。論文の 37 ページをご覧いただくと今までビジョン等かなり市の中で検討されている自治体であると思う。その中でこのプランでは「素材型」として一生懸命頑張ったと思う。ただ、5 年経って再度このプランを見ると、やはり古くなっている。例えばプランの冊子 50 ページの図を見て頂くと、もうこういう時代じゃないなと思う。やはり、皆様のお知恵を拝借して作り変えないとだめだという気がする。そうは言いながらも、産業構造と言うのは先程柳曾会頭がおっしゃったようにそんなに簡単に変わるものではない。我々も大阪府の産業構造を見ていても、やはり 10 年 20 年かかっているのです、そういう意味で言うと 5 年という期間では事業所数等そんなに変わっていないのではないかという気がする。ただ、直近の施策や、先程の SWOT 分析の「O (Opportunity 機会)」と「T (Threat 脅威)」に関しては変わっていると思う。「O」と「T」は積極的に見直して行くのがいいのではないかと思う。その辺りをとっかかりとして勧めていけばいいのかなと考える。

(委員長) 唯一、前回の会議に関わっている松下委員であるので、またいろいろとアドバイスいただけたらいいかなと思う。

(委員) 資料 4 の「『施策 (案)』の再構築」という項目に「金融支援、相談窓口の継続・充実」とあるが、これに関しては我々が本業であるので何かお力になればと思う。実は、銀行としても非常にお金を貸したいと思っている状況がずっと続いているにもかかわらず、毎年貸出金が相当に減ってきている。さらに金利も相当に下がっている。セーフティネットは少し異なるが、融資に関しては我々も相当にハードルを下げている。従来と比べると、我々銀行もずいぶん、産業のお力になれるような取り組みをしてきているつもりである。

また、柳曾会頭がおっしゃったように、岸和田市は他市と比べて大きく違うと思ったのが、海外支援や海外進出といった話がアンケートの中で全く出てこなかったことである。アンケート回収率が 10 パーセントしかなかったので一概には言えなく、また松下委員がおっしゃったように素材型が多いという産業構造の中で、他の市とは少し違うのかも

しれない。企業様とお話していると、売り上げを外に取りに行くのか、はたまた技術革新をして、日本の中で勝ち残っていくのか、単純に言うとそういう図式の中で、資料 2 の概要の中にも海外に関する記述が少ないと思う。ただこれも植野委員がおっしゃったように、ターゲットをどこにするのか、というところが当然あり、一概に海外と言っても厳しいところがある。我々地方銀行は、行政も一緒だと思うが、諸手を挙げて海外に行って欲しいという気持ちは当然なく、出資しても返ってこないことも多いため、軽々しくは言えないが、そのようなお手伝いも、他市でも行っていることもあり、岸和田市でも今回入れてもいいのかなと思う。

(委員長) 池田泉州銀行様は知っての通り、先進的な支援を行っているので、またお力をお借りしたいと思う。

(委員) 細かいところではあるが、資料 1 の 60 ページの図、表の単位もグラフの単位も「万円」となっているが、グラフの単位は「千万円」ではないか。また新戦略プランの 11 ページのグラフでは、単位が「億円」となっており、下の表では「百万円」となっている。これはどちらも「億円」ではないか。

何が言いたいかと言うと、この金額で木材が「強み」となるのか「弱み」となるのか変わってくるのではということであるが、木材関係は忠岡町と重複して行っているところもあり、忠岡町寄りの会社の売り上げが入っていないのかもしれないとも考えられる。あれだけの規模の木材コンビナートというのは非常に少なく、東京の新木場、名古屋と岸和田くらいのものであるが、その中でも一番しっかりしているのが岸和田市のコンビナートだと思う。そういうことを踏まえて、木材という分野も、ターゲットとして考えて欲しい。前回の内容では木材が全然入っていないので、今回は加えて欲しい。

それから、植野委員がおっしゃっていたように雇用の話になるが、高卒者が来ない。和歌山から求人を募集している。市内で求人しても辞めてしまう。「交代勤務が嫌だ」や、「祭りに出られないのなら、親が辞めろと言った」と言われる。岸和田市の人は根付かない。根付いた人は、タバコや酒で体を壊す。これは教育の話にもなってしまうが、祭りはいけど、未成年にタバコや酒を教えないでほしい。高卒で

入社した人が、未成年でタバコを覚えていて、わが社では喫煙率が非常に高いように思う。そういう意味では岸和田はよくないなと思う。そのようなことも含めて検討して頂きたい。

(委員長) まだ農業、漁業、商業からの意見がないので、商業、小売系のご意見お願いします。現状は厳しいと思いますが、宜しくお願いします。

(委員) 状況が厳しいと言うだけではどうしようもない。市、府、国と、我々商店街単位で動くにも、やはり知恵はあっても金がない。こういう現実がある。そうになると行政にすぎることになるが、市も財政難である。府も財政難。今は国の施策で商店街活性化事業というものがある。それを活用されている商店街もおるのも現実。厳しいと言いつつもそうやって頑張っている商店街もいるということも少し認識して頂けたらと思う。

岸和田というのは昔から栄えていて、南大阪から人がたくさん来て、そういう風に反映していったという、ギャップに皆様、私も含めていろいろ考えさせられているところである。

(委員) 農業関係で申し上げますと、後継者不足が実態。荒廃地が増えてきているのが実情。これをなんとか活用しないと、緑地化産業だと、国が言っているが、それは大きな農業地帯だけで、市街地にはこう言った緑地化産業というものは非常に難しい。緑地化産業をやっていかうとすると、かなり有力な特産品がなければ、やはり加工といったことはできないので、やはり難しいのではないかと思う。だからと言って、それを手放しにしておくわけにはいかない。そこで全国的に行われているのが直売所。高齢化した専業農家が栽培したものが、専門的な共同出荷には出せないが、自分たちで食べきれず余ってくる。そこで直売所がある、といった理由で全国的に直売所を作って荒廃地を活用している動きがある。岸和田市で直売所をもっと行えば、パートではあるが100人程度の雇用が見込まれると思う。先程から、岸和田の就業者は続かないといった話がでてくるが、私は岸和田から大きな企業が撤退したこと、このことを市がどう考えていくか知りたい。就職難だと言われているが、やはり岸和田にはメインとなる大きな企業がない。

岸和田には何があるかとなると、「だんじり」となる。そして悪名なことだけが広まっている。そこで行政として、阪南 2 区のこともあるが、丘陵地に企業を誘致していく。そうすることでその企業に対して就職活動をする人や、その周辺にある企業に興味を持つ人が増えてくるのではないかと思う。このままではいくら産業振興のプランを考えても衰退してしまう。これくらい思い切ったことをするべきだ。

これからの農業についても、岸和田市は周辺からしても人口が多いため、直売所をあと 1 つや 2 つ作ってもまだ十二分に採算の取れる消費がある。そこに担い手を育成して、農業を活性化していきたい。

(委員長) 農業をしたいという若者もいる。企業誘致については和泉市が進んでいるので、参考にしていただければと思う。次は漁業関係の方をお願いします。

(委員) 昔に比べて大阪湾は資源が減った。大阪府下の中でも岸和田漁港、春木漁港は漁獲高が最も高いと言われている。昔は地元でとれた魚を地元で食べたりしていた。しかしエビやカニなどは海外で養殖されて入ってくるようになった。加工するにしても海外の方が人件費等安くつくため、安く入ってくる。そういった輸入の魚に負けてしまい、こちらで加工することが難しい。後継者不足も悩みである。浜手地区も土地が少なく、また高齢化もあり若い人がどんどん出て行って、高齢者ばかりが残ってってしまう。農業関係の方は愛彩ランド等頑張っているが、浜手地区にも直売所のようなものを作って、産業として人を集めていけたらと思う。

(委員長) それでは、公募で来て頂いた方がおられるので、お一人ずつ意見を頂戴します。

(委員) 今回の産業政策会議の目的は何か。岸和田の産業をよくしよう、楽しい街にしようという目的で集まっているのだと理解している。今回お集まり頂いている方を見ると、各方面を代表する方ばかりで、申し分ないと思っている。ただ、今回の目的が、以前に作られたプランの見直しとなっている。見直しのための意見を言ったらおしまいなのか。これだけの皆様が揃っているのであれば、これからの目的を決

めて、岸和田をいい方向に持っていけると思う。なので、プランを見直した後の受け皿は誰か、ということを考えるのであればこの会議は非常に値打ちのあるものだと思う。ただ見直すだけでは何も変わらない。様々な業種を超越して、「産業」として、もっとも効率のよい、ふさわしい方向を目指そうということ、委員長をはじめとして、まとめていただきたい。

(委員長) 「推進体制の見直し」とあるので、事務局も意見を出しっぱなしでは終わらない、と理解して進めていきたい。

(委員) 私の生活の中で考えると、私の病院で近隣の高校生を対象に職場見学会に参加を募ったところ、今回で4回目になるが、例年は20人程しか来ないところに40人程集まった。見学対象者は高校1年生2年生で、その方々が「将来看護師になりたい」「検査技師になりたい」と言っている。自分が15、16歳の頃は「将来こうなりたい」などという考えは持っていなかった。

個人的な興味として、岸和田市にはどんな産業があるのか。先々、青田買いのような考えを持って、そのような方々に寄って来てもらえるのは有り難いことではあるが、若い人たちが大学に行かず、高校を出てすぐ専門学校に行きそのまま就職というのは寂しい。そういった方々が大学教育等を受けてから、専門教育を受けて就職する、それを受け入れる産業がある街にして頂きたい。

(副委員長) 前回の見直しを踏まえてアンケートをしたということで見させて頂いたが、先程から話題となっているように、自由記述欄が目立っているように思う。これまで岸和田という街を支えていた産業の役割を、「だんじり」を巡って考えると、地元の、商工特に商店の中で暮らしている方を中心として担われていた。しかし、近代的な産業に労働力が流れている中で、実態にそぐわないという側面が出てきている。「だんじり」というものが非常に文化的に重要なものである。しかしそれが現代的な生活に合わなくなりつつある。そういう意味で、岸和田市を観光と言う側面から考えると、「だんじり」は外せない。そこを、他の産業との間でどう調和的に取り扱っていくのが課題。

また、先程からどこにターゲットを絞るのかという議論がある。そこでSWOT分析のところで何が強みなのかを見直し

た上で、どこに舵を切るべきかを決めるべき。松下委員がおっしゃるように「素材系が強い」とある。素材系というのはやはり他の一般的な機械部分等を作ることと比べると、どうしても裾野部分が狭く感じられる。その中でどちらかというとな裾野が広い部分をどうこれから見ていくべきかが重要。裾野が広い一般機械の領域と言うのが、新戦略プランの 11 ページのグラフで見ると、ちょうど真ん中にあり、強くもなく弱くもないという、非常に曖昧な状態である。そこでこれをどう考えていくのか、というところを、企業誘致とも関わってくると思うが、今後皆様の知恵を拝借しながら考えていきたいと思う。

(委員長) 今回集まって頂いてから、次回 6 月まで時間がある。その間我々が何をしなければならないかを踏まえながら、ご説明頂けるよう、事務局にお返しします。

(事務局) 先程鶴坂委員長から説明があったように、今回は 6 月に行う。この間我々の方で底上げをしていく期間と認識させて頂いている。日程調整に関しては、年度が変わり次第速やかに連絡させていただく。

(事務局) これから議論を深めるにあたって、やはり現状の実態を把握することをより精緻にしたいと思う。次回 6 月までに委員長と相談しつつ深めていきたい。方法についても相談しながら行い、わかった情報については適宜委員の皆様と共有したいと思っている。そのような進め方をしていくので、委員の皆様宜しく願います。

(事務局) 最後に 1 点、資料のことについて追加でご説明させていただく。

先程ご指摘の単位の件だが、次回までに調べさせていただき、次回の会議の際にお渡しさせていただくか、会議までに提出させていただくかとする。申し訳ない。

(委員長) わかりました。本日はありがとうございました。